

2020年7月1日

一般社団法人 Jミルク

コロナ後、SDGs… 世界の酪農乳業の動向紹介 情報誌「国際 Dairy レポート」(季刊) 発行開始

一般社団法人 Jミルクは、グローバル化が進展する中で、わが国の酪農乳業界における国際対応を世界水準とすることを目指し、国際事業の体制整備を進めてきました。その一環としてこのたび、世界の酪農乳業界を巡る動向や直面する課題、牛乳乳製品に関わるマーケットのトレンドなどをまとめた業界・研究者向け情報誌「Jミルク国際 Dairy レポート」(季刊)の発行をスタートさせます。(Dairy は、酪農乳業や牛乳乳製品を意味する英語です)

わが国の酪農乳業界が取り組むべき中長期的な課題——例えば、持続可能性(国連の持続可能な開発目標(SDGs)など)や、国内生産基盤の強化、地域・社会への貢献の「見える化」など——を考えるに当たって、海外の先進事例や仕組みは示唆に富み、参考になります。

加えて、今年に入って新型コロナウイルス感染拡大に伴い、世界的に業務用の牛乳乳製品の需要が激減し、一方で家庭での消費が伸びるといった需要構造の変化が起きました。都市封鎖などの措置解除後も、こうした傾向はある程度、残ると見込まれ、今後の国際的な乳製品需要にも影響してきます。国内の酪農乳業界も、こうした市場の変化に対応していくことが求められており、海外の状況を知ることは意義深いと考えます。

また、日本の酪農乳業界が連携している国際組織——国際酪農比較ネットワーク(IFCN)、グローバル・デーリー・プラットフォーム(GDP)、国際酪農連盟(IDF)など——が行う活動や調査研究の成果なども随時紹介していきます。

こうした狙いから、本レポートを創刊しました。発行計画のあらましは次の通りです。

《発行計画(予定)》

- ▽発行時期 年4回(7月、10月、1月、4月を予定)
- ▽発行方式 Jミルクホームページに掲載
- ▽体裁 A4判・カラー
- ▽ページ数 24ページ

また、創刊号（2020年夏号）では主に次の内容を掲載しています。

《2020年夏号 主な内容》

- ▽新型コロナウイルスが世界の需要構造にもたらした影響
- ▽（上記関連）生源寺眞一・福島大学教授インタビュー
- ▽海外でのSDGs関連の取り組みや課題
- ▽酪農乳業の国際連携に向けて
（IFCN、GDP、IDF、JIDFの活動や成果の紹介）
- ▽IDFブリテン「世界の学乳プログラム」について
- ▽コラム：主要国の食料品価格

以 上

※レポート本体はJミルクホームページ（<https://www.j-milk.jp/>）に掲載しています。

【本件に関するお問い合わせ先】
一般社団法人Jミルク
国際グループ 新 光一郎
東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5階
電話：03-5577-7495